

日本保健医療社会学会 第 200 回関西定例研究会

- ・日時：2009年3月14日（土） 13:00 開場 / 13:30 開演 / 17:30 終演
- ・場所：『キャンパスプラザ京都』 第2会議室（2F）
京都市下京区西洞院通塩小路下ル
Tel：075-353-9111
 - JR 京都駅ビル駐車場西側・京都中央郵便局西側（駅より徒歩3分）
- ・司会：黒田浩一郎（龍谷大学、日本保健医療社会学会担当理事）
- ・発表：立命館大学大学院先端総合学術研究科メンバーによる難病患者（ALS, 筋ジストロフィー）療養支援に関する調査報告

【第1発表】

発表者名：長谷川唯・堀田義太郎

発表タイトル：難病患者の地域生活移行支援における諸課題

要旨：病状の進行に伴い在宅独居生活が困難となった事例を通じて、安定した在宅療養生活を可能とする重層的な支援体制構築のための諸課題を、入院中における支援のあり方も含めて、制度的側面と非制度的側面の双方に留意しつつ、検討する。

【第2発表】

発表者名：仲口路子

発表タイトル：難病患者の地域生活支援における諸課題——退院から在宅へ

要旨：医療を要する進行性難病患者が地域で療養生活を営むことを決意したときの支援態勢における諸課題を、長期入院から退院して独居生活を始めた ALS 療養者を例として、おもに MSW・ケアマネジャーのかかわりを中心に分析する。

【第3発表】

発表者名：西田美紀

発表タイトル：難病患者の地域生活支援における心理的援助についての検討

要旨：医療を要する進行性難病患者が地域で療養生活を営むための心理的課題を、独居生活が困難となった ALS 療養者の事例を通して、エンパワーメントとアドボケートの必要性を再考しつつ、その困難さと課題について考察する。

【第4発表】

発表者名：伊藤佳世子

発表タイトル：長期療養患者の自立支援について——筋ジストロフィーの事例から

要旨：長期療養をしている筋ジストロフィー患者は病院併設の養護学校に通う頃から入院生活をはじめ、そのまま死亡退院するケースも少なくない。2、30年病院で過ごされている方が地域に戻るためにはいくつものハードルがある。実際に30年療養生活をして、その後に地域に戻った筋ジス患者の支援を通じ、病院を出ることを阻害するものを制度面、精神面、社会的な面から明らかにする。